

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第1回 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

開催日：令和3年7月15日（木）

時 間：午後6時半～8時

場 所：阿南市役所6階602号室

1. 会議名：第1回 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

2. 目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化

3. 出席者：委員7名、事務局5名

〔阿南市在宅医療・介護連携推進会議委員〕

- ・原田 晃（医療法人 医正会 原田病院 院長）
- ・村田 昌弘（阿南市那賀郡歯科医師会 会長）
- ・内田 浩二（オリーブ薬局阿南店 代表取締役）
- ・岩佐 久美（公益社団法人徳島看護協会 所長）
- ・井出 千穂（健祥会ケアプランセンター 管理者）
- ・吉村 茂宏（阿南市保健福祉部 部長）
- ・中尾 陽子（徳島県南部総合県民局保健福祉環境部阿南 主任主事）

〔事務局〕

- ・湯浅 祐司（阿南市在宅医療・介護連携支援センター センター長）
- ・日下 浩之（地域共生推進課 課長）
- ・田上 久美（地域共生推進課 課長補佐）
- ・松崎 由美（地域共生推進課 主査兼係長）
- ・織原 裕希（地域共生推進課 事務主任）

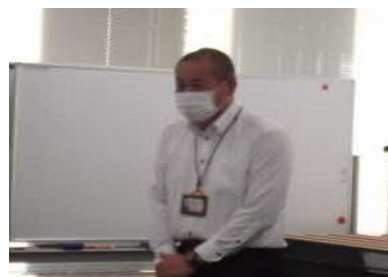
4. 内容

1) 挨拶：阿南市保健福祉部 吉村 茂宏 部長

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるため、在宅医療・介護の一体的な提供を目的として「阿南市在宅医療・介護連携支援センター」を中心として地域の医療・介護の資源の把握や提供体制の構築推進等を実施してまいりました。

また、本年3月に策定いたしました「阿南市高齢者福祉計画・第8期阿南市介護保険事業計画」においても、これまでの取り組みを更に発展させ、体制の拡大を図るとともに、関連する取り組みを実施していくこととしております。

そうした中、昨年からは、新型コロナ対策で病院への通院を避けようとする患者さんや、コ



コロナ禍での面会禁止などの不便さを解消するために、入院治療から在宅医療に切り替える患者さんが増えたことから、在宅医療・介護支援センターへの相談も増えております。

「人生の最期に家族と一緒に過ごせる時間を作りたい」という患者さんや家族の想いととも
に阿南市らしい在宅医療・介護連携事業を進めてまいります。

2) 阿南市在宅医療・介護連携推進委員紹介



原田 晃委員



村田 昌弘委員



内田 浩二委員



岩佐 久美委員



井出 千穂委員



中尾 陽子委員

※上記の委員掲載は阿南市地域共生推進課及び阿南市在宅医療・介護連携支援センターの職員の掲載は省略しております。

3) 協議事項

(1) 阿南市高齢者福祉計画第8期阿南市介護保険事業計画について

第8期計画に基づき、「自分らしく暮らし続けられる医療・介護連携のまちづくり」の基本理念・基本目標に沿って地域共生社会の実現・地域包括ケアシステムの構築に向けて連携をしていく。

また、施策の方向として、①介護予防事業と社会参加の推進 ②地域での暮らしを支える体制整備 ③安定的な介護保険制度の運営を柱にして、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう医療と介護を一体的かつ効果的に提供できるように支援を実施していく。

その具体的な支援内容は阿南市高齢者福祉計画第8期阿南市介護保険事業計画の(ア)～(キ)に記載している。(計画は、阿南市介護保険課ホームページに掲載している。)

(2) 阿南市在宅医療・介護連携事業の行動計画について

令和3年度は重点目標として3つの会議を充実していく。

① 阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ会議。

ワーキンググループは、「切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築」を図るため、多職種で意見交換等を行い、連携強化及び専門職としての知識向上を目的としている会議でありメンバーは多職種の16名で構成。

医療と介護の連携での問題点の抽出・議論、ケアカフェの研修内容の決定等を行い、第1回目を5月13日に開催した。

② ケアカフェ

多職種が顔の見える関係づくりの構築をし、連携強化を図り地域住民の皆様が在宅での生活が長く継続できるよう、専門性の向上を目的としている。

コロナ禍でなかなか会うことができない医療及び介護関係者に直接会って情報共有し、コミュニケーションを図ることによって在宅医療・介護連携に繋げていく。

第1回目を6月29日に参加者48名で「感染症のキホンについて」の講義及びグループワークを実施した。

参加者からは、「知り合いが増えた。」、「是非、次回も実施してほしいし、参加したい。」との意見がでていく。

③ 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

連携推進会議は、阿南市在宅医療・介護連携事業の取組や課題に対して助言や対応策を議論し、具体的な解決策を見出すことを目的としている。

ワーキンググループ会議・ケアカフェで出た問題点、在宅医療・介護連携支援センターに寄せられた問題点等について委員の皆様にご意見をいただき、結果をワーキンググループ会議・ケアカフェ・連絡会議等にフィードバックし、課題解決への対応を実施する。

(3) 阿南市在宅医療・介護における課題について

◎在宅での看取りについて

コロナ禍でなかなか病院等は面会ができない現状で、在宅の看取りの相談が多く寄せられており、往診診療の医師確保等の対応に困難が生じている。

《医療と介護の連携により在宅で看取りを行った事例発表》

- ・家族から「阿南市の住民で良かった。」との意見があった。
- ・医師、訪問看護、お世話センター、居宅介護支援事業所、在宅医療・介護連携支援センターが一体となって支援できたことで、願いを叶えることができた。
- ・問題点として、在宅での看取りに際しての往診可能な医師・病院の受け入れに時間を要した。

《今後の改善・展望について》

- ・相談やニーズに応えられるよう現場の医師から阿南医師会へ看取りのできる医師の確保や提案を行う。しかし、医師の高齢化や医師不足、夜間・早朝への対応課題もあるので急いでできるものではないが努力はしていく。

- ・当番制での取り組みを行っている地域もあるとの意見に対しては、対応できる状態（看取り者が当番病院に受診しておくことが原則）で過疎地域での実施をしている。阿南市としての形を医師会に働きかけて構築を目指す。
- ・阿南那賀歯科医師会としては、訪問診療を積極的に行っているの見守りを含めた在宅継続への意識で診療を行っている。
- ・薬剤師としては、薬の管理や状態確認の連絡を行っている。薬剤師も主治医と連携していく。処方箋等へ栄養管理で看取りに協力できる部分があるので情報提供を頂き、薬剤師としての看取りへの協力を行っていく。
- ・訪問看護も向上のため勉強会等に積極的な参加を行っており、医師の負担軽減もできるよう対応範囲を広げている。
- ・訪問看護・訪問介護もマンパワー不足で薬剤療法での支援も働きかけていく。
- ・在宅医療・介護連携支援センターが作成している阿南市医療機関連携情報（介護支援専門員用）を阿南医師会と連携をして更新を行い、情報の提供を行う。
- ・多職種連携で行わなければならないので、専門職同士の連携を多忙ではあるがICTの活用も含めて行っていく。
- ・情報をHP等で発信し、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように多職種連携で支援していく。

4) その他

阿南市在宅医療・介護連携推進会議は年3回行う。

【会議風景】



※会議の内容等でご意見がある方は阿南市在宅医療・介護連携支援センター

「anda@kenshokai.group」へメールにてご連絡ください。

担当:センター長 湯浅 祐司